

令和5年度の学校評価

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちを尊び、こころやからだを鍛え、たくましく生きぬく力を養う。 ・自ら学び、深く考え、広い視野をもって主体的に行動する力を養う。 ・礼節を重んじ、自らを律し、他とともにこころ豊かな生活を築く態度を養う。 		
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導	① 学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習習慣の確立 ・授業内容の工夫と授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施する学習状況調査の結果（家庭学習時間やスマホの使用時間など）を参考にし、個々の教員が授業改善に取り組んだ。生徒に確かな学力をつけさせるための授業のあり方をはじめ、家庭学習の定着（スマホ問題）を考える必要がある。 ・1年生の朝テストや、成績上位の生徒の意欲喚起等の指導に取り組んだ。週末課題における上位者向けの課題作成といった工夫や、土曜学習教室や補習における習熟度別クラス編成など、クラス横断的な講座の設定などを継続している。また、学習状況調査の結果を参考に、個々の教員が授業改善に取り組んだ。 ・成績上位生徒への対応については、より具体的・効果的な方策を今後も継続して検討する必要がある。学習指導課のみならず、進路指導課や学年での連携により、課題の精選や全体量の調整、成績不振生徒や不登校傾向の生徒への組織的・弾力的対応など、具体的な工夫が今後も必要である。
	② 新学習指導要領の円滑な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領実施上の課題への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の目標とするところを教員一人一人が理解し、十分な準備を持って実施するとともに、「主体的・対話的で深い学び」が実践できる授業について検討し、公開授業等を行った。また、ICT機器の利用について進めるとともに、よりよい授業展開や進度について、各教科で検討してきた。また、「主体的・対話的で深い学び」の目指す授業をさらに発展させていくためにも継続的に研究、実践していくと共に、特にICT機器の使用を積極的に行っていきたい。観点別評価が、その後の生徒の学習意欲向上と改善につながるよう適正に実施する。
進路指導	① 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師や卒業生を活用して、1年生では「社会人を囲んで」、2・3年生では「卒業生を囲んで」「大学説明会」など各学年に応じたキャリア形成を促す取り組みができた。インターンシップは生徒の安全や健康面に十分に配慮しながら1・2年生の希望者を対象に実施できた。従来の取組を実施方法を工夫しながら踏襲することを心掛けたが、学年や時期に応じた系統的な進路指導は十分ではなかった。今後も「生徒の希望を満たす学校」として、進路学習に軸を置いたキャリア教育を推進していく。また、学習指導課と連携し、総合的な探究の時間やLIT、学校行事などを有機的に結び付け効果的で効率的な指導のあり方を工夫していくためにも、さらなる外部の教育資源やデジタル教材の有効活用を検討したい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた進路情報の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒および保護者に対して、3年間を見据えて各時期に応じた内容の進路情報を発信した。年間を通して、共通テストや大学入試の変革などについて丁寧な説明と情報提供を心掛けた。生徒向けの進路説明会や保護者進路説明会等の進路に関する行事について、より効果が上がるよう内容を検討する。今後の入試改革の動向を見据え、現在の取組を見直し新しい取組を考えていく必要性を強く感じるため、その具体的な対応について検討する。
生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻等の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・正門・西門及び昇降口において登校指導を行い、挨拶の励行や遅刻防止に努めた。二学期以降、季節が寒くなるにつれ、遅刻する生徒が増加した。常習化する生徒への対策が課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の重要性について、朝礼や式典の機会を利用し呼びかけた。廊下ですれ違う時にも元気に挨拶する生徒が増えてきている。今後も、教員側からの挨拶を意識していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に於いて、身だしなみ指導を逐次おこなった。清潔感のある身だしなみを心がけるように指導をおこなった。季節が変わる時期の制服着用にはやが乱れがみられたため正しい制服着用を呼びかけた。今後も呼びかけを継続する。また、朝礼や式典の機会を利用して身だしなみを整えることの重要性を全校生徒へ周知した。防寒着については生徒・保護者からの強い要望もあり機能性重視の防寒着の着用を認めていった。
	② 好ましい人間関係の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人権啓発指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・式典時の講話や人権啓発指導などにより、全校生徒に人権を意識し、他人を思いやることの大切さを訴えた。このような指導をしたにもかかわらず、毎年SNSなどによるトラブルが発生していることは残念に思うが、今後も、他人事と思わせない指導を継続していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・担任指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任業務の遂行には生徒との良好な人間関係が必要である。教員も生徒もお互いの成長を望む環境を今後もつくり上げていくことが必要と感じる。

生徒指導		・学校行事の充実	・これまで制限を設けながら実施してきた「つどい」「若葉祭」については生徒・教職員の協力を得て、無事に終えることができた。「若葉祭」は愛知県体育館での実施であったため、スムーズに運営できるよう準備をしてきたが、いくつかの課題が残った。教員や生徒の係、分担を現状に合わせて整理し、より分りやすく、より動きやすくしていきたい。「つどい」については、3年生の合唱コンクールを実施（保護者へはYoutubeによる限定配信）できたことは大きな成果であり、来年度は2年生・3年生の実施としていきたい。学校行事などの取材に対しては、HPへの迅速な掲載やSNSでの配信も行った。入学式・卒業式などアフターコロナに対応した要項作成により適正な運営を行った。
	③ 安全意識の向上	・交通安全指導の充実 ・自己防衛意識の向上	・交通マナーへの指摘や不審者情報などをクラスへのプリント配布や全校放送などで早急に周知した。幸い、大きな事故などは起きなかったが、安全意識のさらなる向上及びヘルメット着用率向上が課題である。 ・SNSに絡んだトラブルに対しては、関係生徒が多人数となることが多く生徒指導課、学年と協力して対応していくことが特に重要になってきている。今後もきめ細かい指導を継続する。 ・朝礼や式典の機会を利用し、生徒自身が危機意識を持つことの重要性について周知を図った。
生徒支援	① 学習支援の充実	・課外授業の充実 ・土曜教室の充実	・生徒はもちろん、保護者からも課外授業・土曜学習への期待は大きいと感じるので、通常の授業と同様、充実したものにしていかなければならない。 ・朝補習の遅刻・土曜学習の欠席など、今年度は生徒の遅刻・欠席の多い日もあったので、改善していけるよう生活リズムを整えるなどの声掛けを日頃から忘れず行なっていきたい。
	② 生活支援の充実	・部活動の充実	・生徒・職員に対し終了時刻、下校時刻の周知に努め、定められた時間内で効率よく活動することにより、学習と両立できる環境づくりに努めた。また、夏場の熱中症対策としてWBGT値の測定により安全を確認しつつ部活動を行った。今後も、安全な下校と学習時間の確保のために終了時刻と下校時刻の遵守を機会あるごとに訴えていく。
		・読書習慣の育成	・新入生オリエンテーションやビブリオワールドなどの読書啓発活動を実施でき、「図書館だより」を生徒による委員会企画として実施できた。最近は教員主導で編集していたものを、図書委員会の生徒独自企画とすることができている。 ・読書習慣の定着しない層（不読層）がなかなか減らない。ビブリオバトルが図書委員だけの活動になってしまっているため学年と連携していきたい。「春の読書習慣」を計画し、新学年のスタートに合わせて読書の習慣を定着させたい。
		・教育相談（特別支援教育）の充実	・配慮が必要な生徒に関する情報を、学年相談係・養護教諭を通して教育相談委員会で共有し、対応について検討した。また、SCによるカウンセリングでは、相談状況を担任へフィードバックすることを心掛けた。その他の対応が必要な生徒に関しては、外部の相談機関や県総合教育センターへの相談を勧め、配慮が必要な生徒に関する情報共有を円滑に進めた。SCへの相談件数は依然多いが、特別支援コーディネーターとSCとの情報共有の時間は確保できている。また、配慮が必要な生徒への早期対応と、教員全体で生徒に寄り添う体制づくりが必要である。 ・生徒保健委員会で「保健だより」を発行した。健康管理意識の向上を図っていきたい。
・環境美化の推進	・全員清掃、ゴミの減量を徹底した。教室からのゴミの減量を意識させたい。清掃道具についても、再利用が可能なものに変更を進めたい。		
その他	① 広報活動の充実	・HP等の有効活用	・本校の教育活動（学校行事や部活動など）について新しい情報を掲載し、学校のことをよく知っていただけるよう迅速な更新を心掛けている。今年度からは公式インスタグラムにおいて学校長が本校の魅力発信を積極的に行っている。
		・学校説明会（体験入学）の改善	・「五条説明会」の募集はGoogleフォームを活用した結果、業務の軽減につながった。実施形態についてはコロナ禍前に戻しつつ、本校の教育活動について本校生徒が中学生や保護者に説明する形態により本校の魅力がわかりやすく伝わるようになった。アンケート結果からも高評価を得ている。
	② PTA活動の活性化	・生涯学習の一環としての活動	・コロナ禍前の形態にもどしていった。諸行事を安全に適切に計画し実行することができた。また、PTA総会をはじめとして多くの会員（保護者）の集まるPTAの年間の活動のあり方について安心・安全を一番として計画の立案・運営と精選を行うことができた。PTAの研修旅行など予定通り実施できたことは評価に値する。
	③ 学校安全の推進	・地震等への対応	・防災避難訓練を実施した。放送により地震の発生時に机の下にもぐる訓練を行った。講評においては間違った情報が飛び交うことにより現場は混乱するので、そのような行為は慎むこと、また、避難所ではお客様ではなく、動ける人は積極的に行動することを呼びかけた。南海トラフ大地震に備えたい。
学校関係者評価を実施する主な評価項目			・学習指導における授業改善の推進及び家庭学習の充実を図る。 ・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの早期発見・早期対応に取り組む。 ・在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに教職員の適切なメンタルヘルスの保持に努める。

